

登米地域の麦作技術情報 第2号

令和3年4月16日発行
Tel 0220-22-6127

登米農業改良普及センター
HP <http://www.pref.miyagi.jp/site/tmnokai/>



【3月の気象経過（観測地 米山）】

3月の平均気温は平年より高め（+3.4℃）となり、日照時間はほぼ平年並み（102%）となりました。月合計降水量は平年比で146%と多く、特に降雨日数が少ないためほ場は乾燥状態が続きました。

1 調査ほ及び管内の生育概要

～草丈はやや短く、莖数は少ない。出穂期はほぼ平年並みの見込み～

表1 4月10日現在の生育状況

| 品種 | 町域 | 地区 | 播種日 (月/日) | 草丈 (cm) | 莖数 (本/m ²) | 幼穂長 (mm) | 出穂予測 (月/日) |
|--------|----|-------|--------------|------------|---------------------------|-------------|---------------|
| あおばの恋 | 豊里 | 上谷地 | 11/14 | 23.4 | 340 | 2.8 | 5/12 |
| | | (平年値) | 11/5 | 28.1 | 910 | 5.3 | |
| シラネコムギ | 迫 | 新花島前 | 11/12 | 21.6 | 453 | 2.7 | 5/11 |
| | | (平年値) | 11/5 | 22.6 | 916 | 2.6 | |

*平年値はH28～R2年の5か年平均

・3月の気温が平年^(注)よりは高かったものの、冬期間の雪害や凍霜害、鳥害が影響し、生育ステージがやや遅れています。

(注：気象庁では、1981年～2010年を平年値の統計期間としています。)

2 今後の管理について

(1) 追肥

～ほ場の生育を確認のうえ、適期に追肥を～

表2 食用麦の追肥の目安

単位：N kg/10a

| | 目安時期 生育状況 | 株直し追肥 (起生期) | 幼穂形成期 (幼穂長2～3mm) | 減数分裂期 (幼穂長20～30mm) | 穂揃期 (8～9割出穂) |
|----|--------------|----------------|---------------------|-----------------------|-----------------|
| | | 莖数を増やす | 穂数を増やす | 一穂粒数を多くする | 千粒重、蛋白含量を高める |
| 小麦 | 2月～3月上旬 | 3月下旬～4月上旬 | 4月下旬～5月上旬 | 5月上旬～中旬 | |
| | 播種が早い(生育量多) | - | 2.5 | 2.5～5 | 2.5～5 |
| | 播種が遅い(生育量少) | 1～2 | 1.5～2 | | |
| 大麦 | 2月～3月上旬 | 3月中旬～4月上旬 | 4月中旬～4月下旬 | - | |
| | 播種が早い(生育量多) | 1～2 | 2～2.5 | 2～2.5 | - |
| | 播種が遅い(生育量少) | 1 | 1.5～2 | 1.5～2 | |

*平成25年度麦・大豆研修会資料より抜粋・一部改変

*大麦は、硬質粒の発生を防ぐため、穂揃期追肥は行わない。

☆本年は冬期間に鳥の食害によりダメージを受けたほ場が多く見られます。食害からの回復をはかるため、適期の減数分裂期追肥を行いましょ。 v.g.m

①減数分裂期追肥

～シラネコムギ～

- ・減数分裂期以降の窒素過多は硬質粒の発生を高めるので、播種遅れや白鳥等の食害等により生育量が劣る場合は、減数分裂期以降の施肥量を減らしましょう。ただし食害からの回復にも肥料を要しますので、追肥自体は行ってください。
- ・平年より茎数が多い場合は、肥料切れにより穂数減や細麦となる恐れがありますので、多めに追肥すると良いでしょう。
- ・減数分裂期追肥を窒素成分で 8～9 kg/10a 程度に増量することで、穂揃期追肥を省略でき、慣行施肥（窒素成分量：減数分裂期 5 kg，穂揃期 2.5 kg/10a）とほぼ同等の収量、品質となります。（普及に移す技術第 83 号）

～あおばの恋～

- ・生育が旺盛な場合は、減数分裂期追肥により倒伏の危険が高まるので、生育量に応じて追肥の量を減らしましょう。目安として、減数分裂期の草丈が 40cm を超える場合は、N2.5kg/10a 以下としてください（普及に移す技術第 87 号）

②穂揃期追肥

- ・小麦はタンパク質含有率を高めるために、穂揃期（全茎の 80～90%が出穂した日）に追肥を行いましょう。追肥量（窒素成分）は、シラネコムギでは 2.5 kg/10a 程度、あおばの恋では 2.5～5kg/10a 程度です。
（シラネコムギで減数分裂期に一括追肥を行ったほ場では、穂揃期追肥は不要）
- ・出穂期 1 4 日後の追肥でもタンパク質含有率は増加しますので、穂揃期を逃した場合も追肥は行ってください。
- ・大麦は硬質粒防止のため穂揃期追肥は実施しません。

(2)赤かび病の防除

- ・赤かび病菌が産出するかび毒、デオキシニバレノール(DON)は人畜に中毒症状を引き起こします。このため、大麦・小麦とも赤かび粒（赤かび病等により赤色を帯びた粒）の混入限度が 0.05%と厳しく設定されています。（0.05%…1 万粒中に 5 粒程度の混入で規格外）

赤かび病防除時期の目安

- 1 回目：開花期
 - 2 回目：1 回目の 7～10 日後
 - (3 回目：2 回目の 7～10 日後)
- * 3 回目は雨が続くなど多発が予想される場合

開花期の目安：

出穂期後平年並みの気温で推移した場合

小麦…出穂期の 9 日後

大麦…出穂期の 6 日後

(出穂期を大麦 5/5 日、小麦 5/15 日とした場合)

- ・管内全体に鳥害等による生育のばらつき、遅れが見られる一方、鳥害を受けていないほ場では、出穂期は平年より早まる見込みです。ほ場確認の上防除日を決定してください。